

2021 夏のおすすめ本 3・4年生

『ファーブル先生の昆虫教室』

奥本 大三郎／文 やました こうへい／絵 ポプラ社

『ようこそすばらしき昆虫の世界へ！』

フランスの昆虫学者ファーブルは、小さい子どものときから自然が大好きでした。とくに昆虫が大好きで、熱心に観察しているうちにいろいろな虫の生活ぶりが細かくみえてくるようになりました。この本では、ファーブル先生が昆虫のおもしろい発見を教えてくださいます。

『わすれないで森のねこ屋敷』

本木 洋子／さく 久住 卓也／え 大日本図書

青葉台団地にひっこしてきたいすみ。ひっこしてきた次の日、大好きな猫のモモがいなくなってしまう。朝早くから近所をさがしまわりますが、どこにもモモの姿がありません。すると家の前に見知らぬ黒猫が、誘われるように後を追っていくと…。

『雨の日のせんたく屋さん』

にしな さちこ／作・絵

森のかたすみでくらす小さいきものたちのちょっとおかしくて、心にひびく6つのおはなしです。雨の日だけせんたくやさんをひらくかたつむり一。自然の中でおこる何気ない発見や日常に喜びを感じる姿がとても素敵にうつります。雨の日が少し楽しくなるような、やさしい気持ちになれる、そんな物語です。

『もういいよう』

あまん きみこ／作 かわかみ たかこ／絵 ポプラ社

入院中のお母さんに、みっこちゃんが語って聞かせる、出会いのものがたり。ヒデリコ野原に行ったら、まいごのひつじやきつねや、どんな動物だってともだちになれる！…ちょっとふしぎなお話です。お母さんが早く治って、家族みんながおうちで過ごせますように！

『お蚕さんから糸と綿と』

大西 暢夫／著 アリス館

お蚕さんは蛾（カイコガ）の幼虫です。白いイモムシであるお蚕さんから、つやつやした絹糸やふっくらした真綿が作り出されるなんて、ふしぎだと思いませんか。この本は、体長1cmにも満たない生まれたばかりのお蚕さんが成長し、繭になり、人の手によって生糸や真綿が生み出されるまでを、たくさんの写真とともに紹介しています。

『ねこの風づくり工場』

みずの よしえ／作 いづの かじ／絵 偕成社

町の大通りから少しはなれた小高い場所に、ガタンガタン、ウインウインと、一日じゅういそがしそうな音をたてている工場があります。工場の大きなまるいタンクから出てくるもの、それはこの町をふきわたる「風」でした。そして、そこではたらいっているのは、この町にくらすねこたちなのです。どうしてねこたちが町中を足音たてずに歩くとおもいますか？それはね・・・読んでからの楽しみ！

『もしもトイレがなかったら』

加藤 篤／著 少年写真新聞社

自分の健康を守るため、そしてみんなが安心して、気持ちよく暮らしていくために必要なトイレ。日本にはいつからあったの？世界のトイレは日本のとは違うのかな？災害などで水が使えないときのトイレや昔の下水事情、最新トイレの情報など、気になるけど聞きにくいトイレことがわかります。



小川町立図書館